

3月7日 火曜日

2017年 (平成29年)

日刊みなと新聞

発行所

みなと山口合同新聞社◎

〒750-8506 下関市東大和町1丁目1-7

☎083(266)3214 土曜・日曜・祝日休刊

「漁師の技マニュアル化を」

山口県 就労希望者40人に研修

山口県は県内で新たに漁業者を目指す研修生を対象に「研修生の集い」を2月25日、山口市内で開き約40人が参加し、「師匠の方言が聞き取れない」「人によって教え方が違い戸惑う。マニュアル化してほしい」など、不安や課題などを闊達（かつたつ）に話し合った。

先駆けて1998年から新規就業者（ニューフィッシャー）対策事業に着手。現在では全国トップレベルの厚い支援体制を構築し、全国各地から漁師を目指す若者が年当たり40人前後が集まる。

参加者の半数が昨年12月から研修を始めたばかり。自己紹介では「分かる強い危機感から、全国に

意見交換会では就業者の半分が県外出身者とおって「方言で師匠が何を言っているのか分からない」との声が多く上がった。先輩漁業者が「酒と一緒に飲めば腹を割って教えてくれる」「海の上では一人だからこそ陸での人間関係が大事。いざという時、力を合わせて助け合う場面がある」などと話す。研修生は真剣な表情でうなずいていた。



新米漁師たちが不安や課題を話し合った

研修生は「現在乗組員だが70代の師匠には後継者がいない。10年後に放り出されるのでは」と不安を上げた。また「教える先輩によってやり方が違うので戸惑う。一般的な手法などを動画や教科書のような形でマニュアル化してほしい」との要望や、「市場で評価されない小魚が大量にあり、もったいない。師匠は『かまぼこの原料だろ』と取り合ってくれないが、手を加えて加工するなどして売れないか」など活発な意見を交わした。